

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ふおれすと			
○保護者評価実施期間	2025年 10月15日 ～ 2025年 10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年 11月 15日 ～ 2025年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 1日の利用人数を制限し丁寧で細やかな療育を行っている。	・ 1人もしくは2人の子どもにじっくりと関わりをもてるように担当制をし、個々の子どもの特性に応じて十分な援助ができるようにしている。	・ 利用人数を調整すると共に、担当制を継続し、1人ひとりの子どもが十分な援助を受ける事ができるように、また臨機応変に対応ができるように職員の配置をしていきます。
2	・ 保育型での療育を行い、その中で集団療育と個別療育を行っている。	・ 生活をしながら(1日の流れの中で)、基本的生活習慣の確立をめざすことができるようにしている。 ・ 保育園、認定子ども園等と同じようなデイリープログラムにし、ここで経験する少人数での集団活動を大きな集団でも生かすことができるようにしている。 ・ 個別療育では、言語聴覚士の療育もあり(3歳児以上)希望者はうけることができる。 ・ 個別療育を別室で1対1で行えるようにしている。	・ 今後も保育園、認定子ども園等と同じようなデイリープログラムで療育を行い、子どもが戸惑わずに園生活に移行できるようにしていきます。 ・ 言語聴覚士の療育は保護者のニーズに合わせて増やしていきたいと思います。 ・ 今後も個別療育は別室で1対1で行える環境を用意し、子どもが集中できるよう配慮していきます。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で、子どもに関する情報の共有ができており、協力体制が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝夕の会議の中で子どもの発達段階や、気づきを話し合い、サポートをどのようにしていくかの提案をしたり、相談をしている。 ・1人ひとりの特性や気を付けるべきこと(薬状やアレルギー等)を一覧表で確認できる。 ・情報の更新や意見交換は会議以外でもできる雰囲気がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、毎日の朝夕の会議をもち、職員同士が活発に意見交換できる雰囲気を大切にすると共に、その時間を保障し、皆が共通認識を持って同じ方向を向いて支援できるようにしていきます。
---	--	---	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識をより高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門的知識が向上するように、勉強会や研修の時間を確保したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の運営体制の中で勉強会や研修会の時間を確保することは大変難しいが、工夫し、時間を確保し、職員の向上心を支えていきます。 ・外部研修を積極的に紹介していき、参加を促していきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所など、地域との交流の機会を積極的に増やすことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終日利用の子どもは少なく、短時間利用の子どもが多いことと、土日等他事業所が交流日にしている日に休所しているため、積極的に考えることはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな交流等、できることから始めていきます。
3			